

アカマツ青変被害の防止技術の開発 (5)

－アカマツ樹皮下へのキクイムシ類の穿孔を被覆材により阻害した際の青変防止効果－

1. はじめに

アカマツ材の通年出荷を行うため、薬剤を用いずに青変防止することを目的に、防虫ネット、スギの粉碎樹皮および緑葉を被覆材として用いた場合の青変防止効果について検討を行った。

2. 方法

【試験期間および材料】2004年5～7月に県内の約30年生のアカマツ林地内で、アカマツを伐採、直ちに長さ1mに玉切りし、直径6～15cmの丸太を調製し、各10本ずつ山積みし、処理を行った。

【処理】(1) 防虫ネット区：1mmメッシュの防虫ネットで被覆し、ネットの裾は地面に埋設した。(2) スギ樹皮区：粉碎したスギ樹皮を用い、丸太全体を被覆した。なお、被覆に用いた樹皮量はA区を30リットル、B区を60リットルとした。(3) スギ緑葉区：スギの緑葉を丸太が見えなくなるまで積み上げた。また、対照として無処理区、防カビ+防虫処理区を設定した。なお、防カビ+防虫処理は、防カビ剤（株）ザイエンス社製プレザリンBAM）と、防虫剤（同社製サンプルザ-WEL）を、それぞれ30倍、50倍に水で希釈して散布した。

【調査】試験開始から1、2ヶ月経過後に、木口面の青変の有無を数えた。また、木口面以外の材面については剥皮して、穿孔しているキクイムシ類等の穿孔数、青変箇所数を測定した。

3. 結果 (表参照)

【木口面の青変】防虫ネット処理区では1ヶ月経過では青変が観察されなかったが、2ヶ月経過後には青変を防ぐことが出来なかった。また、スギ樹皮A、B区およびスギ緑葉処理区では青変を防ぐことは出来なかった。

【樹皮下材面】1ヶ月経過時点ではスギ樹皮A区ではマツノキクイムシ、マツキボシゾウムシの食痕が観察されたが、防虫ネット、スギ樹皮B区およびスギ緑葉処理区ではキクイムシ類の穿孔を防止できた。2ヶ月経過するとスギ樹皮A、B区およびスギ葉区では樹皮下に多数のゾウムシ、キクイムシ類の穿孔が観察されたが、防虫ネット処理区ではゾウムシは観察されず、キクイムシの穿孔も僅かであった。

4. 成果の活用

防虫ネット等を用い、キクイムシ類の穿孔を阻止すれば、少なくとも1ヶ月間は樹皮下材面の青変を抑制できる。

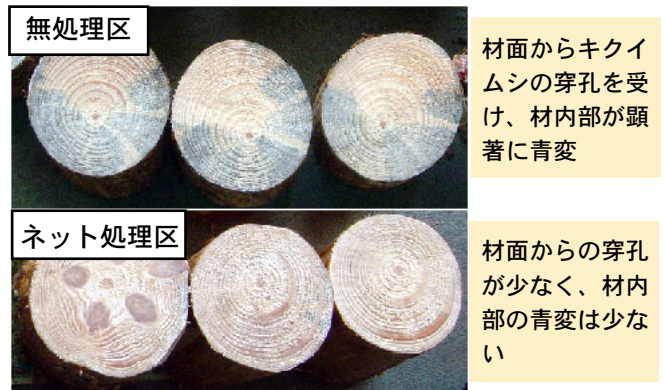


表 試験結果 (試験開始2004.5.28)

処理区	1ヶ月経過 (2004.6.28)			2ヶ月経過 (2004.7.28)		
	木口面	樹皮下材面		木口面	樹皮下材面	
	青変本数 (本/10本)	穿孔数 (個/m ²)	青変箇所数 (個/m ²)	青変本数 (本/10本)	穿孔数 (個/m ²)	青変箇所数 (個/m ²)
無処理	6	51	16	10	119	102
防カビ+防虫	0	0	0	2	0	0
防虫ネット	0	1	0	10	32	11
スギ樹皮A(30リットル)	6	79	6	10	116	35
スギ樹皮B(60リットル)	10	4	0	10	102	9
スギ葉	6	0	0	10	130	31

・1ヶ月間は効果有り
・2ヶ月間でも材面では穿孔、青変は少ない

・木口青変が発生
・2ヶ月目には穿孔、青変が顕著

(担当者 林産利用部 主任専門研究員 谷内博規)

連絡先

〒028-3623 岩手県紫波郡矢巾町大字煙山第3地割560番地11

岩手県林業技術センター

ホームページアドレス：<http://www.pref.iwate.jp/~hp1017/>

TEL 019-697-1536

FAX 019-697-1410